

文教厚生委員長報告

令和元年9月定例会

文教厚生委員長報告をいたします。

文教厚生委員会に付託されました議案の審査結果等について報告いたします。

今定例会において本委員会に付託されました議案は、「令和元年度島根県一般会計補正予算（第2号）」など予算案5件、「島根県民生委員定数条例の一部を改正する条例」など条例案3件であります。

これらの議案について、執行部に説明を求め、慎重に審査いたしました結果、いずれの議案も全会一致をもって、原案どおり可決すべきとの審査結果でありました。

次に、報告事項など所管事項調査における質疑、意見等のうち主なものについて申し上げます。

まず、健康福祉部所管事項についてであります。

執行部から報告のありました「新しくびき学園の概要について」では、委員から、学園を卒業された方には、修了証のほか、例えば「はつらつフェロー」といった称号の付与なども行ってはどうかとの質問があり、執行部からは、卒業者への称号付与などを検討したいとの回答がありました。

また、別の委員からは、学園が県内の東西に各1校では、通いにくい方々も相当数おられるのではないかと。出前講座など、学園に通いにくい方々への措置を検討してはどうかとの質問があり、執行部からは、他県での取り組み事例なども参考にし、出前講座等、通いにくい方々に対する対応を検討したいとの回答がありました。

次に、教育委員会所管事項についてであります。

執行部から報告のありました「令和2年度県立高等学校の入学定員について」では、委員から、中山間・離島地域でのこれまでの取り組みの結果、入学定員が増えることは将来的に関係人口の増加にもつながり、また、最近では各市町村の意気込みも以前と比べて大きく変化してきており、各自治体と連携し、当県の武器であるしまね留学をしっかりと盛り上げてほしいとの意見があり、執行部からは、しまね留学は県内生、地域にとっても良い効果をもたらしており、しまね留学で県内の高等学校に留学し卒業された方が、夏期休暇等を活用し母校等を訪れ、いろいろなアドバイスをするなど、卒業後も交流する機会が増えてきている。10年ほど前から留学制度に取り組んできた優位性を発揮しながら、今後も様々な取り組みを模索していきたいとの回答がありました。

また、執行部から報告のありました「SNS相談事業について」では、委員から、本事業は文部科学省事業に参画しているものであるが、第1回目の相談期間の一部が始業式後となってしまったところがあるのではないかと。子ども達は始業式に向けた時期が一番不安定になるとの統計があるので、第2回目の開催にあたっては、時期を考慮した相談期間となるよう、国に伝えてほしいとの要望がありました。

最後に、「令和元年度全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会等の成績について」では、委員から、本年も中学生及び高校生が頑張り、良い成績を残してくれているが、各種競技団体からは、第84回国民スポーツ大会を見据えた小学生や中学生世代の強化策が必要との声がある。また、部活動にはない競技に興味を持つ児童生徒もあることから、本格的にスポーツに打ち込める環境整備、教職員の意識改革などが必要ではないかととの質問があり、執行部からは、教員や地域指導者、各種競技団体との連携や児童生徒がスポーツを続けることができる環境の整備など、知事部局と連携し、対応していきたいとの回答がありました。

以上、文教厚生委員会における審査の概要等を申し述べ、委員長報告といたします。